

新除草・調節剤

ソルネット® 粒剤 プレチラクロール除草剤

(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社
武田薬品工業株式会社

対象作物：移植水稻。

成分・作用特性：本剤は、2-クロロ-2,6-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリドを2%含有する類白色および淡灰色の細粒である。

本剤は、水田雑草の幼芽部および幼根部より吸収され、細胞内、細胞間、組織などを移行して作用点(タンパク生合成系)に到達し、生育抑制(阻害)作用を発現させ、枯殺するものと考えられる。その作用は、雑草の発芽時期に処理された場合に、もっとも強力に現われる。

特徴：①水田一年生雑草からマツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリなどの多年生雑草まで広範囲の水田雑草に優れた除草効果を示す適用草種の幅が広い水田用初期除草剤である。②処理適期幅が広く、雑草発生前からノビエの1.5葉期まで使用できる。③低温条件下で、雑草がだらだら発生する場合でも安定した除草効果がある。④栽培法、気象条件、湛水深等による影響が少なく、通常の使用条件では全地域において安全に使用できる。⑤有効成分量が少なくとも有効であり、また魚介類に対する危険性も少なく、環境に及ぼす影響の少ない薬剤である。

毒性：急性経口毒性は、ラット雄 3,600 mg/kg、雌 2,200 mg/kg で普通物。魚毒性は、コイ(48時間) 2.17 ppm でB類である。

使用方法：10 a 当り 3 kg の散布で、十分な除草効果を発揮する。ノビエ 1.5 葉期まで使用できるが、ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリが発生する地域では、なるべく早めの田植後 5 日頃までに散布すること。満足できる除草効果を得るために、中期除草剤と体系処理をすること。とくに、ホタルイ・ミズガヤツリの優占する地域では、これらに有効な中期除草剤との体系処理が必要である。

使用上の注意：①苗の植付けが均一となるように、代かきをていねいに行なうこと。②散布に当たっては、水の出入りを止めて、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5 cm程度)を保ち、落水・かけ流しはしないこと。③砂質土壌の水田および漏水の大きな水田(減水深2 cm/日以上)、軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えの水田では、初期生育抑制の生ずるおそれがあるので使用をさけること。

バスタ液剤 グルホシネート除草剤

(事務局) ヘキストジャパン株式会社
(取扱メーカー) 石原産業株式会社
日本農薬株式会社
日産化学工業株式会社

対象：桑園および非農耕地。

成分・作用特性：本剤は、アンモニウム-DL-1-ホモアラニン-4-イル(メチル)ホスフィナートを18.5%含有する青緑色澄明水溶性液体である。

新除草・調節剤

天然物誘導型の新しい化合物を有効成分とする本剤は、非選択性茎葉処理型の除草剤で、葉および緑色の茎部から吸収され、速やかに植物体内を移行する。本剤の有効成分は、グルタミン合成酵素の活性を阻害するため、植物細胞内にアンモニアが蓄積され、植物細胞の諸生理代謝が阻害されて雑草は枯死する。また、土壌中では微生物によって速やかに分解され、安全な天然物質となる。植物の根からの吸収による害作用はなく、有用植物に影響を及ぼすことはない。

特徴：①非選択性で、イネ科・広葉雑草を問わず、一年生・多年生雑草のほとんど全ての生育中の雑草に卓効を示す。②散布後2～5日後には徴候が現われ、通常7～14日で効果完成という強力な殺草力を示す。③単なる接触殺草ではないので、多年生雑草も地上部枯死後再生を長期間抑える。④微生物により分解され、土壌中に長期間蓄積されることはなく、また根部吸収による害作用がないので、散布直後に移植や播種ができる。⑤通常の薬量・処理法では、多年生雑草の根を完全に枯殺しないので、除草による土壌崩壊の心配がない。⑥低毒性なので、安心して使用できる。

毒性：急性経口毒性は、ラット雄でLD₅₀値は1660 mg/kgで普通物。急性経皮毒性は、ラット雄でLD₅₀値は4000 mg/kg以上である。魚毒性はコイTLm(96時間)1000 ppm以上、ミジンコTLm(96時間)1000 ppm以上である。

使用方法：今回登録となった使用基準は、表に掲げる通りである。

使用上の注意：①本剤は茎葉処理型であり、土壌処理効果はないので、雑草発生揃い後の生

対象作物名 ・適用場所	適用 雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	10アール 当り 散布量	処理 方法
桑	一年生 雑草	春期萌芽 前および 夏切後萌 芽前(雑 草生育期)	500 ml	100～ 150 l	雑草 茎葉 散布
鉄道・公園 ・庭園・堤 とう・駐車 場・道路・ 運動場・宅 地・のり面等	一年生 雑草	雑草生育 期	500～ 1,000 ml	100～ 200 l	
	多年生 雑草		1,000～ 2,000 ml		

育盛期に散布する。②本剤はその殺草作用特性からみて、雑草の生育が盛んな時期に散布するのがより効果的である。多年生雑草で茎部が木質固化した時期では満足な効果が得られないことがある。③本剤は雑草の茎葉全体に均一に付着するように散布すること。雑草の草種・草勢により、使用量の範囲で、薬量・散布量を調節する。極端な低濃度の多量散布や高濃度の少量散布は避けること。④本剤には展着剤も含まれているので、散布にあたって展着剤を加用する必要はない。⑤散布直後の降雨は効果を低下させるので、散布後数時間以内に降雨が予想される場合は散布を見合わせる。⑥散布の際は樹木・芝生等の有用植物に薬液がかからないように注意する。桑園では、桑の芽・葉にかからぬよう特に注意すること。⑦非農耕地での使用に際しては、湖沼・河川等に薬液が飛散流入しないように注意すること。⑧本剤の散布や調製に使用した器具類は、使用後に十分に水洗いすること。⑨本剤の安全使用のため、一般農薬の使用上の注意事項、取扱保管上の注意事項を守って使用すること。